総合的な競争力で今年も伸びていく

全国大学生活協同組合連合会
会長理事　庄司興吉

皆様、新年おめでとうございます。大学生協連会長理事３年目の庄司です。

グローバル化とともに協同組合の意義も高まってきています。昨年開催された国際協同組合同盟の総会では、世界中でなんらかの協同組合に参加している人が 8 億人にも達し、主だった 300 の事業体の総供給高が 1 兆ドルにも達することが示されました。

もちろん、協同組合には農漁業や金融業などのものもあり、それらに較べて生活協同組合は必ずしも大きいわけではありません。さらにそのなかでも大学生協などはごく小さな生活協同組合であるにすぎません。しかし、世界中の学生サービスあるいは学生支援のあり方を調べてきて分かったことですが、大学内の福利厚生その他を、学生を中心とする協同組合方式で担ってきている日本の大学生協は、その内容や規模の点から見て世界でもユニークなものです。

グローバル化のなかで大学が競争にさらされ、限られた運営資金で内容から外観におよぶ改善を行っていこうとするなかで、大学生協の意義が高まってきています。今こそ生協の出番ですが、大学は生協と一般企業とを天秤にかけてきますから、生協はけっして安閑としてはいられません。

今こそ、学生、院生、留学生、教職員、つまり大学構成員によってつくられている協同組合であるという生協の特長を生かし、一般企業にたいして競争力を強めるとともに、大学にたいするアピール力を強めていかなければなりません。大学構成員の手で大学構成員を対象に事業を行ってきた生協の競争力は、大きな資本力を誇る大企業や特定分野に特化した企業などの競争力にぶつかると、経済的には劣勢に立たざるをえない場合もあるかもしれません。しかし、生協は、経済面での競争力を、消費者が同時に事業者であるという組織的な利点や、組合員の好みや環境意識や社会的関心などを汲み上げやすいという社会的文化的な利点などによって、何重にもカバーすることができます。

そういう面を大学にも積極的にアピールしていくことにより、生協は大学に協力しながら協同の輪を広げていくことができるはずです。大学に協力的で総合的な競争力を強化することをつうじて、大学生協は今年も伸び続けていきたいと思っています。

（生協流通新聞２００８年頭所感－０７１２１５）